

# 琉球大学学術リポジトリ

中学校保健授業におけるパフォーマンス課題を導入した授業実践 — 「思考・判断」の観点に関する一考察—

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学教育学部附属教育実践総合センター 公開日: 2011-04-14 キーワード (Ja): 保健, パフォーマンス課題, 評価 キーワード (En): 作成者: 江藤, 真生子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/19088">http://hdl.handle.net/20.500.12000/19088</a>

# 中学校保健授業における パフォーマンス課題を導入した授業実践 －「思考・判断」の観点に関する一考察－

江藤 真生子

## Examination of effect of "performance task" in Physical Education

Maiko ETOH

Key words : 保健、パフォーマンス課題、評価

### I. はじめに

中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」（平成20年1月17日）においては、「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」を「学力の重要な要素」であることを明確に示した。基本的な考え方として「思考力・判断力・表現力等の育成」については「観察・実験・レポートの作成・論述など知識・技能の活用を図る学習活動を発達の段階に応じて充実させるとともに…(中略)…各教科等において、記録、要約、説明、論述といった学習活動に取り組む必要がある」と指摘された。新学習指導要領においては、学習プロセスとして「習得」「活用」「探究」に焦点があてられ、基礎的・基本的な知識・技能の「習得型」の学習を重視し、その知識・技能を活用する「活用例」の学習の充実が強調され、これらの発展型ともとらえられる「探究型」学習の充実があり、知識・技能の定

着も確実となるとしている。授業レベルにおける思考力・判断力・表現力を育成に適したプロセスとなる教授行為及び教材等の開発の必要性が示唆される。中央教育審議会に設置された「健やかな体を育む教育の在り方に関する専門部会」（平成17年7月27日）による報告書では、「保健分野」のミニマムが提示され、「知識を行動に結びつける力」は「習得した科学的知識を行動に結びつけ、自他の健康を管理したり、改善するための意思決定や行動選択につなげる実践力をすべての子どもたちに身につけさせることが極めて重要」と示された。「知識を行動に結びつける力」はまさに保健分野における思考力・判断力と言えよう。

一方、現行学習指導要領における教育課程審議会答申「児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方について」（平成12年12月4日）で示される「目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）」や「指導と評価の一体化」を基本方針とする中で今後、思考力・判断力及びその習得過程に対して適切な評価が目されること

\* 琉球大学教育学部附属中学校

ろである。田中(2008)は教育評価の立場と構造として「真正の評価(authentic assessment)」論からの提案をもとに「目標に準拠した評価」の課題と展望について述べている。「真正の評価」登場の背景には、「(標準)テスト」の作為性や儀式化の様相に対する批判が込められており、構成主義的な学習観(知識は受動的に伝達されるのではなく主体的によって構成されると考える立場)により支持されるものである。「真正の評価」においては「実社会」「生活」「リアルな課題」が強調され、「真正」な課題に取り組ませることによってこそ、子どもたちの中に生きて働く学力が形成されるとともに、その学力の様相を評価することも必要であると考えられる。思考力・判断力の育成や評価に適したものの一つとして「パフォーマンス評価」や「ポートフォリオ評価」があると考え、授業レベルにおいては「パフォーマンス評価」や「ポートフォリオ評価」は「真正の評価」となり得ると判断できる。松下(2007)は思考力・判断力のような見えにくい学力を何らかの方法を使って学力がパフォーマンスとして「見える」ように工夫する必要があるとしており、「ある文脈のもとで、様々な知識や技能を用いて行われる人のふるまいや作品、直接的に評価する方法」を「パフォーマンス評価」としている。「パフォーマンス評価」とは、「パフォーマンス課題」を与えて解決・遂行させ、それを複数の評価者が「ルーブリック」と呼ばれる評価基準表を用いながら評価していくものである。他方で、西岡(2009)は「パフォーマンス課題」とは、リアルな文脈(あるいはシュミレーションの文脈)において、知識やスキルを総合して使いこなすことを求めるような課題であるとしており、ここではレポートや絵画などの完成作品(products)やスピーチや実験のプロセスといった実演(狭義のperformance)が評価されるという。ここでは実生活における文脈にある課題を設定する立場から両者を同様にとらえることにする。

近年、中学生の健康行動における課題が注目される中、保健授業においても知識習得に偏ることなく習得した知識を自己の生活場面で活用

できる力の育成が必要とされている。前述の「健やかな体を育む教育の在り方に関する専門部会」(平成17年7月27日)報告にあるように適切な判断のもとに望ましい行動変容する力を育成することには、意志決定が重要な手掛かりとなると考える。「意志決定」スキルは、WHOが提唱するライフスキルの一つであり、JKYBは「問題状況において幾つかの選択肢の中から最善と思われるものを選択する能力」と定義している。「意志決定」は①問題を明確にする、②問題解決のための選択肢を列挙する、③必要な情報を収集して分析する、④各選択肢がもたらす結果の長所と短所を予測する、⑤置かれた状況や自分の能力等を考慮して最善と思われる選択肢を決定して実行する、⑥その有効性を評価する、というステップから成るとしている。新学習指導要領において中学校保健分野の目標とされる「生涯を通じて自らの健康を適切に管理し改善していく資質や能力を育成するため」に、保健授業においては、「習得」した知識を実際の生活の中で課題を見つけることに「活用」する過程を意識した学習により、思考力・判断力も育成できると判断した。そこで、本実践においては、望ましい行動変容につながる「意志決定」の「自分の生活を振り返り課題や問題点を把握する」ことに焦点を当てる。3年生保健授業において、実生活における文脈にある課題を設定したパフォーマンス課題(リーフレット作成)を導入し、学習により習得した知識を活用して、自他の健康づくり(マネジメント)をねらいとした題材を設定した。また、毎時間の学習活動を示した評価基準をもとに適切な意志決定(問題把握)できたかどうか自己評価し、教師評価との照合により自己評価能力育成の支援とした。

## Ⅱ. 研究目的

本研究の目的は、中学校保健授業第3学年「健康な生活と疾病の予防」単元において、習得した知識を用いて課題の解決策を考えるためのパフォーマンス課題(リーフレット作り)を用

いた実践により、リーフレット作りを通して生徒にどのような影響を及ぼしたか検討し、保健授業へのパフォーマンス課題の導入の可能性を提唱することにある。単元後の生徒の感想記述をテキストマイニングの手法を用い、実践の効果を分析する。

※リーフレット (leaflet) とは、宣伝広告、案内や説明などのために、一枚の紙に刷られた印刷物を指す。印刷物として、折り込みちらしよりは高級感や存在感を持たせ、パンフレット (小冊子) より簡便なものとして、名称の認知度に反しリーフレットの需要は高い。(Wikipediaより)

### Ⅲ. 研究方法

#### 1. 調査対象と授業実践の実施時期

対象は、R大学教育学部附属中学校における第3学年1クラス39名(男子19名女子20名)とした。教科書は「新・中学保健体育」(学習研究社)を使用し、パフォーマンス課題で扱った内容は、前半期(平成20年5・6月)の「健康の成り立ち」「食生活と健康」「運動と健康」「休養と健康」「生活習慣と健康な生活」単元の範囲と、夏季休業の課題「病気の原因とその予防」、後半期(平成20年9月に行った「喫煙・飲酒」単元とした。実施期間は、平成20年9月(後半期)で全5時間を割り当て、授業は教職歴12年目の保健体育教諭が行った。

#### 2. 授業実践における指導計画とその概要

本単元におけるパフォーマンス課題は以下の通りである。課題設定時の生徒の役割は、「健康推進を呼びかける立場」とする。

沖縄県は長寿県といわれ、女性の平均寿命は全国1位となっています。男性は・・・。

しかし、この数年のデータを見ると、伸び率は男女とも最低で、平均寿命に影響が表れるのも時間の問題です。高齢者への対学習した内容を理解している。自分の生活を振り返り、課題を把握できている。策も大切ですが、青少年のころからの健康教育も重要となっています。

そこで、あなたはあなたの住んでいる市町村から家族に向けて健康づくりのためのリーフレットを作ることを依頼されました。(A3用紙1枚)授業で学習した内容(教科書・ノート)を参考にして、(自分で調べたりしてもよい)リーフレットを作ってください。

今回の「健康の成り立ち」、「運動と健康」、「食生活と健康」、「休養と健康」、「生活習慣病とその予防」、「喫煙と健康」、「飲酒と健康」単元に対して、次のような観点の目標を設定した。

- ①健康について関心を持ち、自己の生活の課題を把握し、改善しようとする【関心・意欲・態度】
- ②自分の生活の課題を把握でき、課題に適した解決策を考えることができる。【思考・判断】
- ③対象を明確にし、内容がわかりやすいリーフレットを作成する。【技能・表現】
- ④学習で扱った範囲において、教科書レベルの内容を理解できる。【知識・理解】

「思考力・判断力」育成の観点より、毎時間の学習活動を自己評価した基準は、表1に示す通りである。この基準をもとに生徒の自己評価

表1 本実践の自己評価の評価基準

A:すばらしい \ (^o^)/	B:よい (*^_^*)	C:がんばろう (-_-)
学習した内容を理解し、自分の生活を振り返り、課題を解決するための具体的な方法を知っていたり、考えたりすることができている。	学習した内容を理解している。自分の生活を振り返り、課題を把握できている。	学習した内容を理解していない。自分の生活を振り返ったり、課題を見つけれたりすることができていない。

とその理由をワークシートに記述し、教師がワークシートの点検により適切かどうかフィードバックし次時に返却した。

表2と以下の図1～5に授業実践における指導計画と使用したワークシートを示す。オリエンテーション時に上記の課題を提示し、習得した

知識からリーフレット作成のために必要な情報をまとめ、リーフレットにより表現することを意図した教材とした。リーフレットについては、上質紙を使用し、完成後はラミネートし返却した。

表2 扱った教材と指導計画

時	主題名	学習活動	過程		
前半期での学習	健康の成り立ち	前半期の学習で基本的な知識を学習。	習得		
	食生活と健康				
	運動と健康				
	休養と健康				
	ストレス対処				
後半期	学習の進め方と課題の説明 生活習慣病の予防と原因 ワークシート1・2	①学習の進め方（パフォーマンス課題や自己の生活に「振り返る」ことの意味）を理解する。 ②夏休み課題グループごとの発表を聞き、生活習慣病の予防と原因について理解する。 ③自己の生活を振り返る。	習得 活用		
1					
2				①生活習慣の大切さ（プレスローの研究）と喫煙・飲酒の害についてビデオや教科書より理解する。 ②自己の生活を振り返る。（身の回りの人や飲酒・喫煙の環境） 宿題：喫煙や飲酒についてインタビューする。	習得 活用 (活用)
3				①飲酒・喫煙のきっかけについてインタビューを参考にブレインストーミングし、きっかけや理由は個人・友達や家族・社会に関わることにありと理解する。 ②広告に使われているテクニックを理解し、学習した知識をもとに広告を批判する。 ③自己の生活を振り返る。（広告や宣伝に誘惑されていないか）	活用 活用
4				これまで学習した知識(教科書)を参考に広告のテクニックを使い、自己の課題を設定し、リーフレットを作成する。	活用
5	(グループ) 発表会	グループ内で発表し合い、互いの課題の設定の仕方やリーフレットの作成方法を理解する。	(活用・探究)		

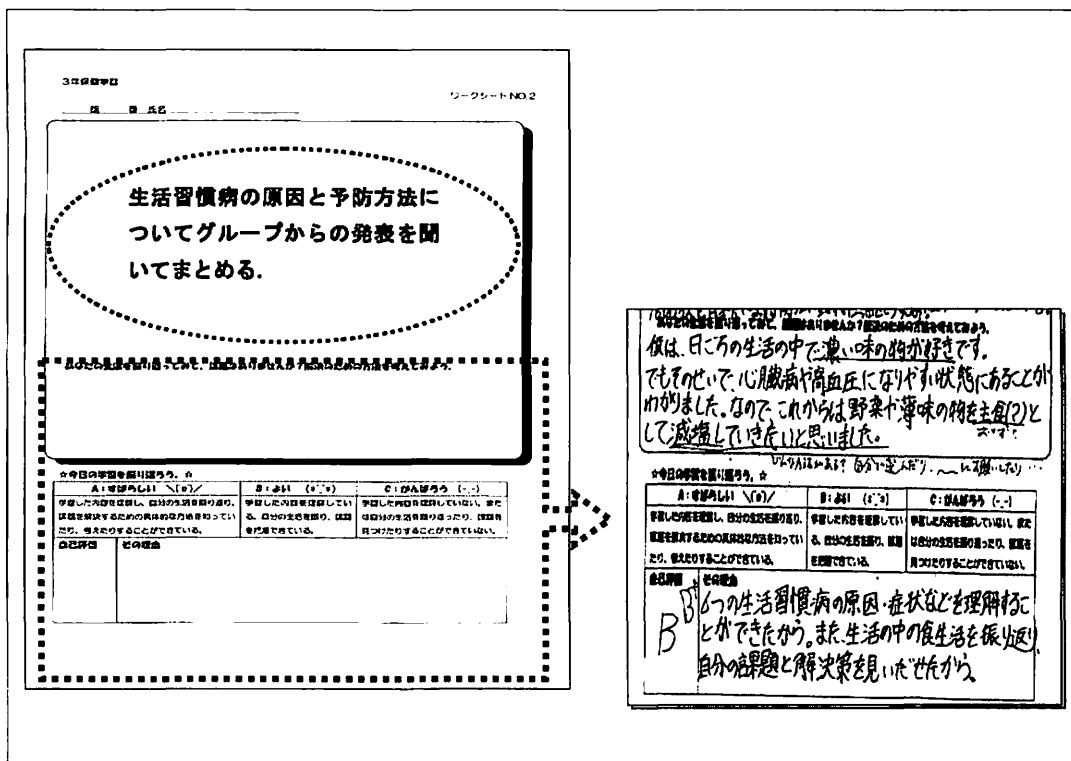


図1 第1時に使用したワークシートと「振り返り」の記述例

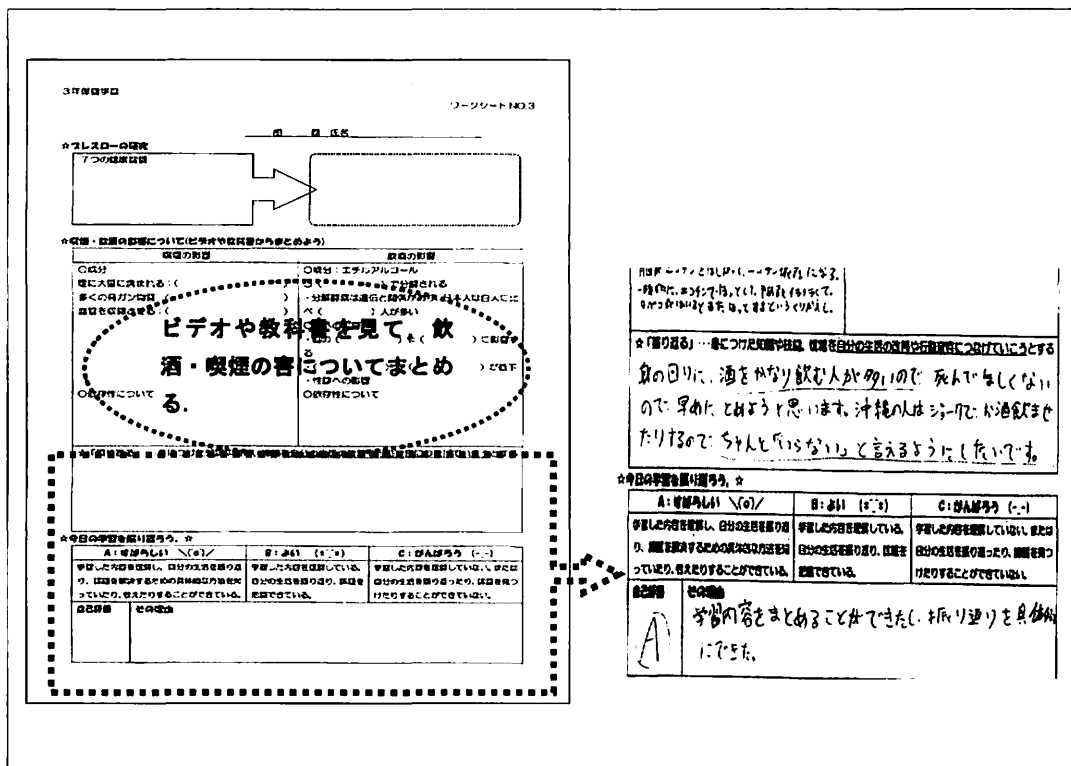


図2 第2時使用したワークシートと「振り返り」の記述例

3年 総合学習 宿題

★課題 (調査) ヘインタバコについて

Q1 なぜ、タバコを吸うの? (なぜ、お酒を飲むの?) (だっは「たけ」)

落ち着くから

Q2 吸うとどうなるか? (飲むとどうなるか?) 身体や気持ちの変化

落ち着くから、集中できるから

Q3 吸うと体に影響・害があることを知っていますか? (飲むと体に影響・害があることを知っていますか?)

知っています

(知っている場合は具体的に)

肝臓、血圧、呼吸器

Q4 特に気をつけていることはありますか?

ヘインタバコを吸う。ミレージが少な  
のものを吸っている。喫煙量を付けている。人前で吸わない  
ための配慮をしている

Q5 喫煙の受動喫煙型はどちらの方が害が大きか  
いと思いますか?

喫煙者が大きいと思う。  
二重の意味で悪いと思う。  
インタビューして見て、受動喫煙の害が大きい。  
お父さんは冷やかしを言っていた。アンケートをした  
あと断々とやめます。お酒はあきらめてきたけど  
たぶんまた吸うと思う。  
自分も大にたばこを吸って吸わない。

- 身近な人へ飲酒や喫煙の
- ①きっかけや理由
  - ②吸うとどうなるか (体や気持ちの変化)
  - ③害について知っているか
  - ④気を付けていることはあるか
  - ⑤生徒からの質問
- (⑥インタビューした感想)
- についてインタビューした。

図3 宿題アンケートの記述例

3年 総合学習 ワークシート 1904

★課題 (調査) タバコや酒の害について、グループワークを行い発表を行うこと。

ブレインストーミングをして  
気付いたことや広告のテクニ  
ックについてまとめる。

今日の学習を振り返ろう。

A: 良かった (1)	B: 良かった (2)	C: 良かった (3)
学習した内容を理解し、自分の生活に役 目を果たすための具体的な方法を 知ることができた。	学習した内容を理解し、自分の生活に役 目を果たすための具体的な方法を 知ることができた。	学習した内容を理解し、自分の生活に役 目を果たすための具体的な方法を 知ることができた。

自己評価 どの理由

★課題 (調査) タバコや酒の害について、自分や身近な人へのインタビューを行い、その結果を発表すること。

新発売のガム(期間限定)を  
買って来たがパッケージ以外に  
特に違いはなかった。→失敗してヤ?!

たばこの広告は危険性を明記して  
から、良いところだけを強調していた。でも  
タバコは有害だ。ここからCMやTV

★今日の学習を振り返ろう。気づいたこと、考えたこと、感じたこと。

A: 良かった (1)	B: 良かった (2)	C: 良かった (3)
学習した内容を理解し、自分の生活に役 目を果たすための具体的な方法を 知ることができた。	学習した内容を理解し、自分の生活に役 目を果たすための具体的な方法を 知ることができた。	学習した内容を理解し、自分の生活に役 目を果たすための具体的な方法を 知ることができた。

自己評価 B+

タバコの広告のテクニックがわかった。またよかったです。この中で何が最も面白かった。自分の生活  
ある程度振り回された。

図4 第3時使用したワークシートと「振り返り」の記述例

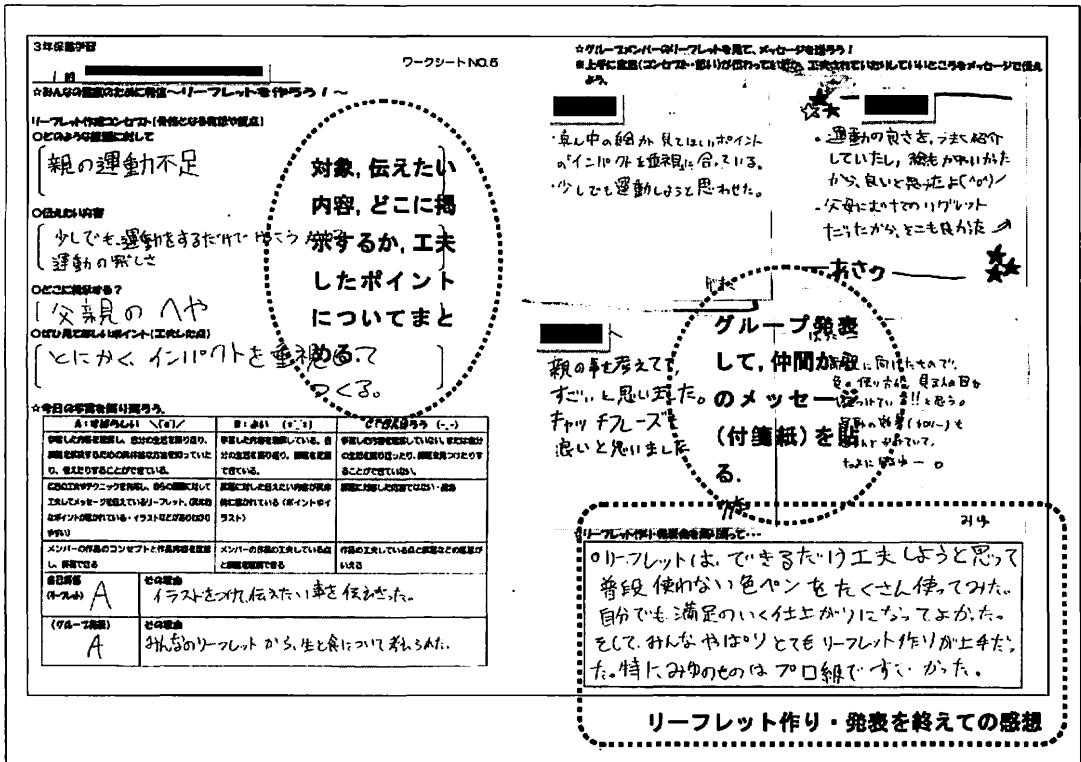


図5 第4時使用したワークシートの「振り返り」の記述例

完成作品(リーフレット)は、授業者の教諭と教職1年の保健体育教諭が作成した評価基準(表3)に基づいて総合的にA・B・Cで評価した。

表3 リーフレットに関する評価基準

評価	内容 (課題の適切さと内容に関する理解)	作品完成度
A	対象の課題を適切に把握し、その課題に適した内容で、具体的な解決方法が書かれている。	授業で扱った広告のテクニックを上手に使い、見やすく人に(見ている人に伝えやすく)仕上げる。
B	対象の課題を適切に把握し、その課題に適した内容(正しい情報・教科書レベル)となっている。	授業で扱った広告のテクニックを使って仕上げている。
C	対象の課題を適切した内容となっていない。	文字やイラストが雑で内容が伝わりにくい。

総合的評価として、パフォーマンス課題に取り組んだ感想と最終時において作品の相互評価を行った生徒の発表会の感想の記述をテキストマイニングの手法を用い分析した。

#### IV. 結果と考察

##### 1. リーフレットの評価

課題とするリーフレットの内容の種類は表4の通りとなった。

テーマは「生活習慣」が一番多く40.5%であった。次いで食生活(24.4%)、喫煙防止(18.9%)、運動(10.8%)、飲酒(2.8%)、生活習慣病予防(2.8%)の順であった。休養については全くなかった。誰に対して呼びかけるか(対象)については、自分と家族(35.1%)、家族全体(27.1%)、自分



表4 リーフレットのテーマ別割合

テーマ	全体n=37 n (%)	男子n=18 n	女子n=19 n
生活習慣	15(40.5)	6	9
食生活	9(24.4)	5	4
喫煙	7(18.9)	3	4
運動	4(10.8)	3	1
飲酒	1(2.7)	1	0
生活習慣病	1(2.7)	0	1
休養	0	0	0

(16.2%)、親(父か母どちらか)(16.2%)、家族他(祖父母やいとこ)(5.4%)の順であった。テーマの「飲酒」「喫煙」に対しては、学習内容としては彼らの発達段階を考慮すると知識としては非常に重要であり、「飲酒」「喫煙」の害や影

響を理解する一方で、対象が「自分(家族を含めた)」が多いことから分かるように、「生活習慣」に対するテーマが多くなったと考えられる。作成されたリーフレットを以下に示す。

自分へ



自分と家族へ



家族(母親)へ

### ① 買い物で脂肪削減

- 買い物に行くときは自転車で
- Let's go.
- 効果
  - 脂肪を消費して
  - 体重をジワク減らす
  - 外の空気で
  - ストレス解消。

**20年前の体型にタイムスリップ**

自然にCO<sub>2</sub>削減!!

自然にGood

代わりに代を自分のアクションに!!

### ② ラジオ体操で朝に強い

- 家族でラジオ体操
- 効果
  - 食前のちょっとした運動
  - で体に変化? (BMIやBMIの減少)
  - 兄弟、夫婦の運動削減?

**家族に Good**

家族のストレスが削減。 Good.

家族が朝に強い


学校の遅刻ゼロ

家族(喫煙・飲酒する)へ

## なぜ、禁煙はむずかしい??

**■ 禁断症状があるから難しい?**

ニコチン中毒の脳内状態。簡単に禁煙するのは難しい。禁煙薬や禁煙補助薬が有効な理由は、脳内のニコチン受容体を変化させ、禁煙時の禁断症状を軽減することです。禁煙薬は禁煙補助薬と併用することで、禁煙成功率が上がる可能性があります。



**■ タバコをやめるのは簡単!**

ニコチン中毒の脳内状態(ニコチン中毒)は、禁煙後はすぐに改善される。禁煙後は、禁煙補助薬や禁煙薬を併用することで、禁煙成功率が上がる可能性があります。禁煙後は、禁煙補助薬や禁煙薬を併用することで、禁煙成功率が上がる可能性があります。禁煙後は、禁煙補助薬や禁煙薬を併用することで、禁煙成功率が上がる可能性があります。

**まずは5日間の禁煙!!**

作成後のリーフレットの教師評価は表5に示す通りとなった。

表5 リーフレット(作品)の教師による評価

評価	全体n=36 n (%)	男子n=18 n	女子n=19 n
A	23 (63.9)	9	15
B+	10(27.8)	8	2
B	3(8.3)	1	2
C	0	0	0

表3を評価基準に評価したところ、「A」評価は23名(63.9%)、「B+」評価は10名(27.8%)、「B」評価は3名(8.3%)、「C」評価は該当者なしという結果になった。内容と完成度を総合的に

評価したため、当初は3段階の基準を設定していたが、評価者による検討会の結果、内容はAだが、完成度がBであれば「B+」の段階を設定した。評価基準については、西岡(2009)によ

ると予備的ループリックを単元の終了時に見直し、より正確に評価できるループリックの開発も可能であるとしている。男女による作品の完成度による違いは見受けられなかった。

## 2. リーフレット作りの感想記述の分析

リーフレット作りを終えての自由記述による感想文を、テキストマイニングの手法を用い、データ解析を行った。<sup>21)</sup> 形態素に分解する時に、例えば「よかった」は「形容詞-自立」の「よかつ」と「助動詞」の「た」に分けられ、

品詞条件を絞り込む際に助動詞は削除するため、有効な形態素として「よかつ」となる。「楽しかった」も同様である。本研究においては、「よかつ(た)」や「楽しかつ(た)」と表記する。

### (1) キーワード抽出による傾向分析

31名から回収された記述を対象に抽出された形態素1139語を品詞情報により208語に絞り込み、修正・結合の作業を行い、出現頻度が2以上の33語を抽出した(図6)。

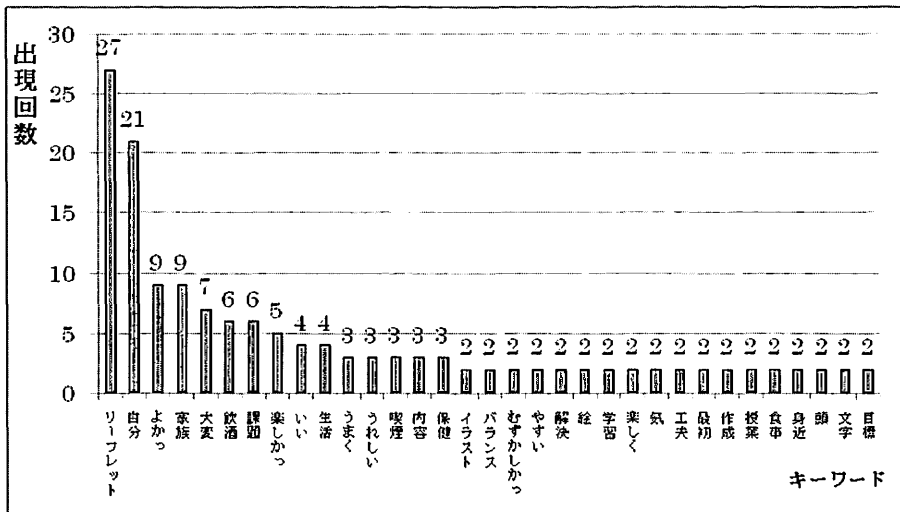


図6 キーワードの抽出

図6に示すとおり、テーマに含まれる「リーフレット」が最も多く(27回)、次いで「自分」(21回)、「よかつ(た)」 「家族」(9回) 「大変」(7回)などのキーワードが抽出された。「自分や家族」及び「自分」のために作成した割合は合わせて51.3%となっており、対象となる「自分」というキーワードが2番目に多いことはリーフレット作りの目的意識が強く現われているものと考えられる。「家族」(9回)も同様であると考えられる。「よかつ(た)」(9回)とは、「できて(よかった)」 「仕上げられて(よかった)」 「内容も(よかった)」などに続いて出現していることから七木田(2002)による保健授業評価票により抽出された5因子うちの「有益性」に対応すると考えられる「有益性」を得たものと考えられる。7回出現している「大変」

(「むずかしかつ(た)」(2回)と同様)は、初めてパフォーマンス課題に取り組むことについての負担感を表すものと考えられる。扱った内容の授業が前半期と後半期に分けられたことや、作成過程における時間の不足が考えられる。以下、「楽しかつ(た)」(5回) 「いい」(4回)など授業に対して好意的な印象ととれるキーワードが出現した。学習内容については「飲酒」(6回) 「喫煙」(3回) 「食事」(2回)が出現している。

### (2) キーワードの関連性

抽出したキーワードにクラスター分析(平方ユークリッド距離によるワード法)を適用し、抽出語相互の関連を調べた。視覚的に類似度を示すもので、近くに布置されたキーワードは同



表6 評価の照合 (( )内は%を示す)

	第2時(n=28)		第3時(n=39)		第4時(n=31)		第5時(n=32)	
	生徒評価	教師評価	生徒評価	教師評価	生徒評価	教師評価	生徒評価	教師評価
基準A	23(82.1)	7(25)	33(84.6)	15(38.5)	27(87.1)	23(74.2)	23(71.9)	21(65.6)
基準B	5(17.9)	21(75)	5(12.8)	24(61.5)	4(12.9)	8(25.8)	9(28.1)	11(34.4)
基準C	0	0	1(2.6)	0	0	0	0	0
S=T(生徒自己評価=教師評価)	12(42.9)		20(51.3)		24(77.4)		26(81.2)	
S<T(生徒自己評価より教師評価が高い)	0		1(2.6)		2(6.5)		2(6.3)	
S>T(生徒自己評価が教師評価より高い)	16(57.1)		18(46.1)		5(16.1)		4(12.5)	

価が減少している傾向にあることが分かった。評価をフィードバックすることにより、生徒自身が評価の基準を理解でき、教師と等しく客観的に自己の学習状況を振り返ることができたと推察される。

## V. 今後の課題

本研究は、中学校保健授業における「パフォーマンス課題」を導入した実践により、生徒の思考力・判断力にどのような影響を及ぼすのかを明らかにした。その結果、以下の5点が明らかになった。

- ①本課題における教師による評価は、リーフレットを提出した全員が「B」(概ね満足できる)以上の結果となり、適切な問題把握ができたと考えられる。
- ②生徒の記述より、「自分」や「家族」というキーワードがあり、対象へのリーフレット作りの目的意識が強く現われているものと考えられる。
- ③「大変」(「むずかしかった」)(2回)と同様は、初めてパフォーマンス課題に取り組むことについての負担感を表しており、扱った内容の授業が前半期と後半期に分けられたことや、作成過程における時間の不足が考えられる。
- ④「よかった」(9回)「楽しかった」(5回)「いい」(4回)有益性や授業に対し

て好意的な印象ととれるキーワードが出現した。学習内容については「飲酒」(6回)「喫煙」(3回)「食事」(2回)が出現している。

- ⑤パフォーマンス課題に取り組んだ結果、生徒の記述から、健康について他他(家族)の課題意識、リーフレット作成の負担感及び有益感、健康に対する認識、積極的な学習活動があらわれた。

授業に対して有益性を示し、好意的な印象を持つキーワードが学習内容を代表するキーワードより比較的多い結果となった。生徒の中に学習内容である知識を自己の生活に有効に活用しようとする意識へアプローチできたと思われる。しかしながら、より生活に活かせることを目的とするならば、(扱う学習内容の)範囲を制限したり、さらに具体的な課題解決策を考案させるなどの工夫や北原(2006)のいう目標・内容分析におけるより丁寧な「具体化」「精選化」「構造化」が必要であったことは今後の課題とするところである。

保健授業においては従来の知識伝達型の授業からJKYBによるプログラムなど効果のある授業実践も増える傾向にある。今回は、パフォーマンス課題・評価という実践から評価までを視野に入れ、リアルな文脈(シミュレーション)において、様々な知識やスキルを総合して使いこなすパフォーマンス課題を、参加型の学習形態

による実践として、一つの保健授業の方法として提案する。

保健授業に関する問題においては、効果的な教材開発だけでなく、授業者となる保健体育教諭の課題(内的・外的事項)や学校教職員間の連携体制等課題が山積するが、効果的な実践例を提案・紹介することで解消できるものもあると考える。健康教育においては、多くの効果を実証するプログラムが開発されている。今後、健康教育における視点を活用した多面的な効果のある実践を目指し教材開発を進めていきたい。

#### <注>

1) テキストマイニングは、自由記述による感想文をExcelに入力し、形態素に分解し、統計解析ソフトにより各データ解析を行った。テキストマイニングのプロセスは、データ入手、データファイル作成、データ分析の3段階に分けることができる。まず、記述文を形態素に分解し、分解された形態素には誰の文章に含まれていたかを示すIDを付与する。品詞情報や出現頻度をもとにキーワード候補となる語を絞り込み、修正・統合及び同種の語を一つの語に置換する作業を繰り返し、キーワードを抽出した。品詞条件の絞り込みは、林(2002)と藤井(2005)を参考に同様の条件とした。

#### <引用・参考文献>

- 藤井美和・小杉考司・李政元編(2005)福祉・心理・看護のテキストマイニング入門。中央法規。
- 林俊克(2002)Excelで学ぶテキストマイニング入門。オーム社。
- JKYB研究会編(2006)ライフスキルを育む喫煙防止教育NICE II。東山書房。
- 北原琢也編(2006)特色ある学校づくりとカリキュラム・マネジメント。三学出版。
- 田中耕治(2008)教育評価。岩波書店。
- 松下佳代(2007)パフォーマンス評価。日本標準。
- 七木田文彦(2002)保健授業評価票作成の試み。

学校保健研究、44：47-55。

西岡加奈恵・田中耕治編(2009)「活用する力」を育てる授業と評価。学事出版。

WHO編川畑徹朗・西岡伸紀・高石昌弘ほか訳(1997)WHOライフスキル教育プログラム。大修館書店：東京。